

神戸っ子

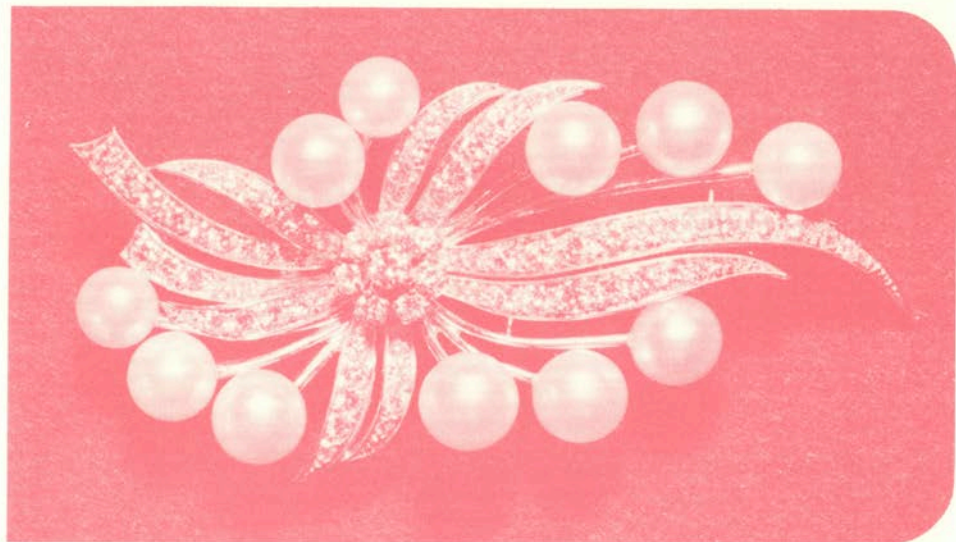
神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和49年11月15日印刷第56号 昭和40年11月15日発行 毎月1回15日発行

郷土を愛する人々の雑誌 **11**月号

magazine kobekko
november 1965 no. 56

RIKOISS

装いが変わるように装身具も
年令と共に変化するのが
美しさを備えるポイントです
気高いブ
ローチが
輝くとき
あなたの
美しさが
ひとしお
輝きます



御木本真珠店

神戸店＝三ノ宮・神戸国際会館

大阪支店＝堂島・新大ビル

ミキモトパール取扱いデパート

大阪高島屋・阪神

本店＝東京・銀座四丁目

これは神戸を愛する人々の手帖です。あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ。これは神戸っ子の心の手帖です。



165
Miyoshi
Takemisha

絵——中西 勝——二紀会

こがね色の秋の陽ざしに
しゅい輝きが香ります

PEARLS BY TASAKI
田崎真珠

三宮店・新聞会館秀品店内
ニューポート店・ニューポートホテル内
東京・銀座店 ヒルトンホテル内
オータニホテル店 羽田：東急ホテル店
札幌・ホテル三愛店





私の好きなとき

田 中 一 枝

〈田中千代服装学園編物講師〉

撮影 / 西村雅司

秋の芦屋は静かである。
ことに山芦屋町にある滴翠美術館はひそやかなたたずまいがあって、私の好きなこの場所の一つになっている。精魂こめてつくられた美術品をみていると、その美しさに自然に心がなごんでくる。
庭にでると紅葉が赤く色ずきはじめて、その色どりのあやしさが私をとらえてしまう。いつのまにかあの毛糸を編むセーターの色に組み合わせてみてはどうかしらと考えている自分に気がついてわけもなくおかしくなる。忙しい仕事のあいまに、ほんと見出す静かなひととき、手編み毛糸の持つ暖たかなぬくもりがあるように私は思う。

（田中 一枝）

「幼いとき手袋を編んでみて、それが皆に手離しではめられると得意になって次々と編物に熱中しはじめてしまってた……。動機っておかしなものですね」と美しく笑う田中さんは田中千代服装学園の編物の先生。
昔からは芦屋夫人の洋裁の出稽古と、好きな仕事とはいえないかな忙しげな様子。きものがつくりと似合う人が少ないなかでみごとに着こなしている。

（滴翠美術館で）

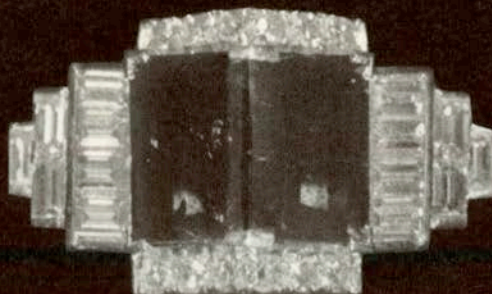
確信をもってタジマの目が選んだ世界の宝石の名品！



当店でお買上げのダイヤ指輪は
販売価格で引取り交換を
お約束しております

白金台ダイヤ入りエメラルド指輪

Tajima
タジマ
*** 宝飾店



元町2・TEL ③ 0387・2552

私の好きなとき

礒野伸也

〈三菱重工神戸造船所勤務部教育課〉

撮影 / 西村雅司

マウンドに立ち、打者と視線をあわせる。打者の気迫がぐっと迫まり、ぼくの眼の中で火花が散る。「何、ぜったい負けないぞ」とガキッとうけとめる。この緊迫した一瞬で勝負が決まる。「こいつはよく打つのかな」と躊躇するとたちまちボカッと打たれてしまっている。お互いにさぐり合い、打者対投手のかけひきがこのマウンドの上でぶっかかりあう。自分の思うように投げてうまく打ちとった時の嬉しさ、それにひきかえホームランを飛ばされて打者がホームへ帰ってゆく時の口惜しさ。どっちにしろマウンドに立つ時がぼくの好きな時間でもある。

〈礒野伸也〉

背番号18のエース礒野は三菱重工神戸造船所の野球部が三年連続で都市対抗の神戸代表となった原動力。今年2回戦で優勝チーム電々近畿に惜敗したが、頭脳的ピッチングの冴えを高く評価されて全日本チームの一員に選ばれ、ペルー・ブラジル・メキシコへ遠征し勝利投手の名をほしいまゝに去る11月18日帰神した。神戸大学出身の生粋の神戸っ子である礒野投手は陽焼けた顔に「何処の国の人にも心から歓迎されて」と白い歯をほころばせる好青年である。独身26才。

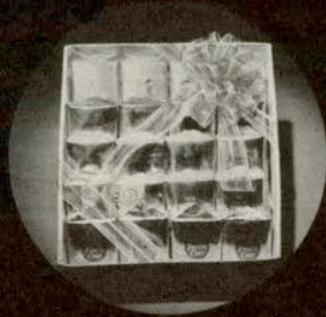


ヒロタがおすすめる世界の三大銘菓

マロングラッセ

バームクーヘン

プラムケーキ



新しいさんちかスイーツタウン(ヒロタ)

洋菓子の ヒロタ

本社★大阪市天王寺区上汐町6
 〈神戸〉元町店・三宮秀品店
 さんちかスイーツタウン
 〈大阪〉新大阪駅店・富国店
 大阪駅東口店・梅新店・ウメダ店
 戎橋店・ナンバ店・天王寺店
 天満店・塚本店・豊中店
 尼崎店・守口店・淡路店



「自我」は神戸の代表的な文学同人雑誌。終戦後「ヴァイキング」と並んでいち早く誕生し、島尾敏雄氏などから、「最も言いたいことをいい、書きたいことを書く同人誌」などと批評されたが、昨年末再刊後さらに多くの有能なメンバーが加わって、気分一新で新しい船出に乗り出そうとしている。

小説と評論を主にした純然たる文学誌だが約二十名の同人のうちには、全国的な文学雑誌の受賞作家が三分の一近くもいる半面、あくまで意欲にあふれた実験的作品を生もうーとの申し合わせがなされていることなど、めいめいの文学への「執念」ぶりがなかなか激しい。

再刊してからまだ四号だが、こんごの活躍が大いに期待されよう。



写真右から・領家弘子〈主婦〉青木重雄〈神戸新聞専門調査報道室〉長浜謙〈神戸市社会福祉主事〉加藤惇〈燃料油脂新聞社〉松田達郎〈住友建設工業KK〉陳舜臣〈推理作家〉
沖塩徹也〈姫路琴ヶ丘高校〉黒部亨〈作家〉小山牧子〈兼松商事〉冬木喬〈推理作家〉伊藤誠〈神戸新聞学芸部〉馬部貴司男〈兵庫県労働金庫〉及川英雄〈作家〉谷村礼三郎〈商業〉

さんちか＊レディスタウン TEL 39-3886-7



村田＊真珠 / 銀座山岡＊毛皮 / マリークリスチン＊舶来服飾

本社 神戸市生田区山本通4-97 TEL 23-1212-6

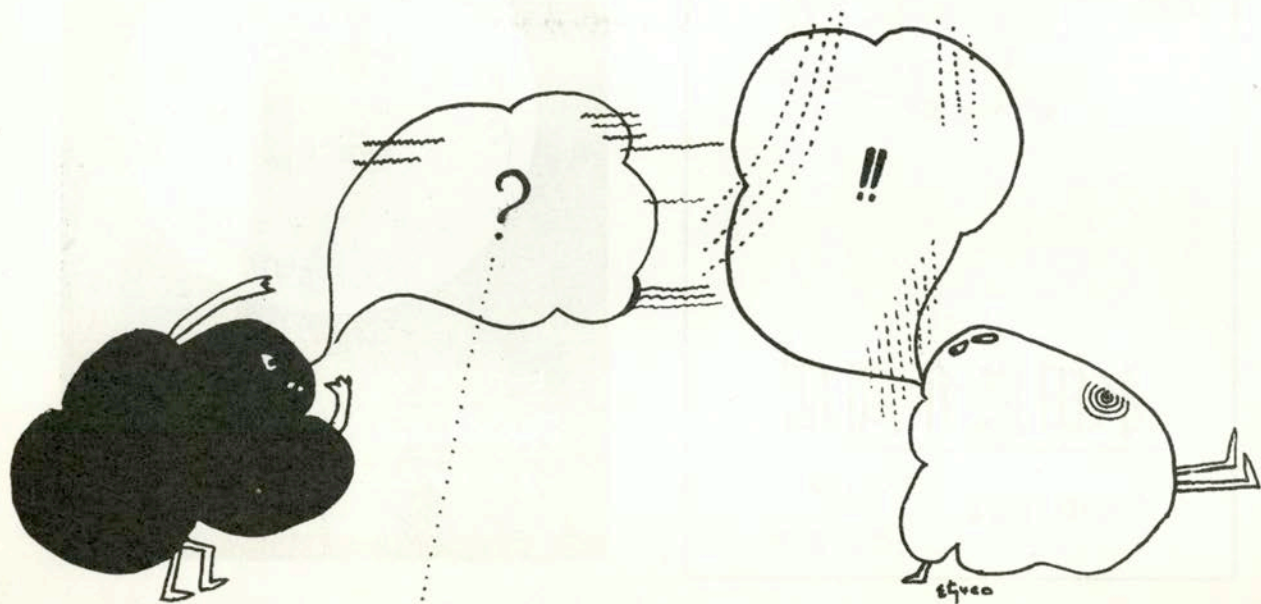
気品に輝く
……パール
ゴージャスな
……毛皮
……海外直輸入の
……婦人服



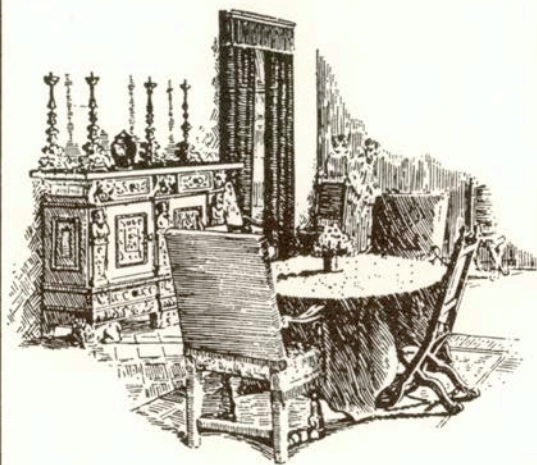
11月号目次

1	Second Cover / 中西 勝
3	グラビア / わたしの好きな時 / 撮影・西村雅司 / 田中一枝・磯野伸也
7	グラビア / ある集い「自我」同人
11	わたしの意見 / 松野 実
12	随想四題 / 政治家にかぶとをめぐ・古林喜楽さんちか・タウンという街・小山牧子
16	人口六位死守 / なか・けんじ
19	ミュンヘンのビール祭・加藤隆久
21	ある集い「その足あと」 / 「自我」
23	随想 / 平野神田町・中村立行
27	連載随想② / 空手・阪本 勝
30	随想 / 父・馬場のこと断片・島 京子
33	神戶つ子放談 / 嘉納毅六
39	経済ポケットジャーナル
42	るぼるたーじゅコウベ⑩ / バナナ・松原新一
45	神戶の集いから / 神戶眼鏡院40周年・断雲出版記念会
46	映画のこと手当たり次第② / 淀川長治
48	コニチヲ船長さん⑩きく人 / 玉奥 章
51	THE DOOR MAN of ORIENTAL HOTEL, V
52	KOBE YOUNG JOURNAL
55	MODE of KOBE / 福富芳美
60	11月の髪 / 西野 明
63	パリ通信⑨ / 佐藤昭年・花久仁子・若みゆき・紅園ゆりか
67	暮しのバラエティ⑩ / 真珠
78	マンガ特集① / マンガ神戶 / 永井文明他
82	マンガ特集② / 座談会 / 漫画家のみたコウベという町・
84	たかはしもう・春山 正・福永道子・田中晋一
88	マンガ特集③ / アンケート / 漫画家と神戶
96	神戶を愛しむ私のコース⑩ / 増淵陽二
101	神戶遊戯誌⑩ / 馬術①・青木重雄
102	神戶うまいもん巡礼 No. 33 / 赤尾卯幸子
104	紳士入門⑩ / 竹田洋太郎
107	ボケットジャーナル・花時計
110	連載第31回 / 神戶夫人・武田繁太郎
113	グラビア / 酒徒交遊録・末正久左衛門
116	グラビア / 神戶12月・岡部伊都子
119	撮影・緒方しげを
122	グラビア / 神戶銘店抄・陳 舜臣

表紙 / 小磯良平・カメラ / 米田昌弘・定蔵
レイアウト / 中辻悦子



家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { 39 3 7 3 7
3 7 3 9 }



憩いの
ひとときを
飾る
ドイツ菓子
伝統の
風味

パウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・クラッツ



ドイツ菓子

Fackenheim's

ユーハイム

本店 神戸三宮生田神社前
TEL.(33)1694・8063
三宮店 神戸大丸前市電筋
TEL.(33)2101.(39)3808
本社 神戸市東灘区住吉町茶屋83
TEL.(85)9564 代表

東京 / 銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

みんなが 参加できる スポーツの 広場に

＊わたしの意見

松野 実

〈神戸市中央体育館々長〉



神戸っ子待望の中央体育館がやっと完成したわけですが、とにかく神戸市民の老いも若きもすべての人々が参加してスポーツに親しんでいただきたいものです。

最近プロ野球の影響かもしれません。『観るスポーツ』の要素が大きくなっています。体育館は、ただ、有名選手がやってきて演技をやるというのではなく、それは刺戟剤であって市民自身がヒマさえあれば楽しむという『参加するスポーツ』の広場でありたいと思います。

個人的に使用されても、体育室などは安い料金ですし卓球をしようと思えば、20〜30円あれば一時間充分楽しめます。ですから商店の店員さんなど働く人にもなじんでほしい。今、体育課の人達と相談してスポーツ教室をつくろうという案も出ていますので、下手だからといわないで、まず参加してください。ただ注意していただきたいのは開館まもないこの公共施設にいたずらして破損する人があることです。せっかく完成した市民のための中央体育館を大切に使用してほしいと思います。

また、この体育館の特色のある施設として、スポーツの医事相談があります。これはスポーツをやっていくうえに「素質」と「根性」にプラスしてこれからは「科学的なスポーツ」ということが非常に大切になってきます。たとえば一流の選手でも現在やっているスポーツが肉体的にその選手に適しているかどうか、身体的な長所と欠点を十分に医学的に見て管理すれば、もっと伸びる人もあり、若死したりすることを防ぐことも出来ます。そこでスポーツをやる人に、虚心坦懐な相談をうけて、医学的な面でのアドバイスをやってゆこうというものです。欧米では早くから科学的なスポーツが研究され、実行にうつされていますが、神戸でもこの際、選手を育ててゆく大切な分野として特に力をいれてゆくべきではないでしょうか。メキシコ・オリンピックという目標もあることです。この中央体育館が優秀な選手を育てる場になるとともに、市民の皆さんに愛され、気軽く利用される場でありたいと思います。

□ 随想四題 □

政治家に かぶとをぬぐ

古林 喜楽

原口市長がある公の席上で、神戸市は神戸大学のために、三億円を出したと言われた。また別の会ではあるが、金井知事が県は神戸大学のために、三十億円を出したと言われた。私はこの両方の席にはべつていたのではあるが、なにぶん公の会合のことでもあったので市長と知事とに花をもたせてだまっていた。

しかし当時の学長としての私にとっては、一応事の真相だけはこれを明かにしておく義務があるように思う。成程市長の言われたことも、又知事の言われたことも、その通りであり、神戸市と兵庫県とが、神戸大学の蛸の足の解消と名実ともに、大学を総合大学にすることに對して、絶大な支援を惜しまれなかったことに對しては、これを高く高く評価すべきだと思

っている。しかしこれらの代りに市も県もいかに莫大なプラスを得られたか。文化的、学問的な測り知ることのできないプラスはこれを差しおき浅ましい勘定の計算だけに限っても、市も県も支出を償ってあまりあるものを獲得されているのではなからうか。このことに一言も触れられていないのが私としては黙していられない次第なのである。そこで後世の史家をあやまらせないように、当時の真相をここに書きのこしておきたいと思う。神戸市について言えば、西代の工学部の数地約一万坪、御影分校の数地約一万坪、なおその上に甲南病院の西北の整地ずみの土地約三万坪、計約五万坪も、神戸市はもらっているのである。御影の土地にいたっては、阪神停留所隣接のところでなんと坪十五万坪の土地である。甲南病院西北の土地の方は、私が学長をやめ、福田学長になってからのことであるので、事の委細は私にはわからない。しかしこの三万坪までが神戸市に移ってしまったのであるから、三億円を事ごとしく言われるのはいささか腑におちない。

兵庫県について言えば、成程六甲ハイツの県有地三万坪をもらった。また周辺の約四千坪の私有地も買ってもらう。その上に県立

医大と来年は県立農大とが神戸大学に入る。だからそれ丈の計算に限れば三十億円位に達するであらう。しかしその代りに神戸大学は、姫路分校の土地約二万坪を兵庫県に渡している。医大・農大の合併に至っては、県が四つもの大学をかかえて、その負担にもてあまし気味でもあったのである。この二大学が国立移管になると、県は毎年約三億円がうく。十年で三十億、しかも毎年の大学予算の漸増をこれに加えると、恐らく県は十年で数十億の節約ができるであらう。大学学舎の統合と総合化とによる文化的、科学的のプラスを抜きにしても、このような計算になるのである。

私はこのごろ政治家というものは、このようにものを言うものなのかとつくづく考えさせられている。私など到底政治家になる資格がない。

△元神戸大学学長

さんちか・タウン

という街

小山 牧子

旅に出る時、わたしはいつも胃

袋を五つ、六つもぶらさげてゆきたいものだと思う。それは、知らない駅で汽車が止まるたびに、駅弁が食べたいと思うからだ。そして、知らない街の、それがどんなにさびれた地方であっても、小さな一品料理屋で、その土地の人たちが作った郷土料理を食べる時、始めてその土地の心がわたしの体内を駆け始めるのだ。わたしは、だから、いつもずいぶん貧欲な心で知らない土地に出掛けてゆくのだと思う。そして、そんな欲望に較べて、わたしの胃袋は、なんと小さいことか。わたしは、いつも少ししかその土地の心に触れずにすこすこ帰ってきてしまうのだ。さんちか・タウンという大地の下の見知らぬ街にもぐり込んで行った時のわたしもそうだった。

坂のある通路の両側に、美しく深い奥ゆきでたたずむレイス・タウン、メンズ・タウン。二ヵ月後にポーナスを控えている私には、それらは私の胸に、豪華な豊かな夢を与えてくれるのである。

多くの黒い河のような人の波に押されて、その一郭を通り過ぎ、一つの角を曲った。味ののれん街だ。途端にわたしの目はきよろきよろとさまよい、輝きだす。

寿司、天婦羅、ちゃんこ料理、洋食。「なんでもあるなアノ」わ

たしは、だれに話しかけるでもなく声に出してつぶやき、何度もその通りを往來した。

そこは、かつてわたしが旅した地方とは似ても似つかぬ、ガラスとセメントと石材でできた街並ではあったが、わたしにはなぜかなつかしく、心が開いてゆくのを感じるのであった。

一軒のシヨウ・ウインドウの前に大変な人だかりがしていた。人の脇腹をかきわけて最前列に出る



と、目の前のウインドウの中で、白い割烹着に帽子の青年が、捏ねたうどん粉の塊りを振りまわっていた。手打ち中華そばを作っているのである。うどん粉の塊りは、一瞬長い棒状になり、白い大蛇のようにくねり、勢いよく板の上にたたきつけられる。「達者なもんやなアー。」時を忘れて、そばができたがるのに見とれ、わたしは再び歩き始める。

そして、わたしはやはり体の中に胃袋が一つしかないことを残念

がっていた。

その日は、さんちかタウンのごく一部分に触れたに過ぎなかったけれど、鼻口をふくらませ、左右にきよろきよろと目をくばりながら、そして、これからの長い時間、ゆつくりと新しくできた街のすべてに触れてゆくのだとつぶやきながら、わたしは火災のように灯が群る夜の地上に出た。

神戸に生れ、育ったわたしの生涯で、始めてさんちかタウンを歩いた思い出は、明るい灯となってわたしの胸に残り続けるだろう。あの海鳴りがする日本海に沿った街をリュックをかついで歩きまわった二十才のころのわたしの思い出のように。

〈自我同人〉

人口六位

死守

なか・けんじ

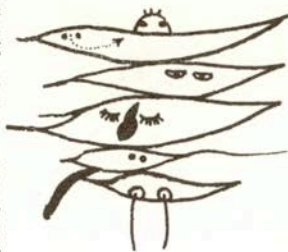
むかし、小学生のとき、五大強国というのを習った。忘れる筈もない位教えこまれたのだが、今さて、日英米独仏だったか、イタリィがいわれだしたのは防共枢軸以来だったか、ソ連や中国は入っておるわけもなし、と全く変転きわまりがない。子供ごころに、こん

なところに日本を入れてよいのかしらん、と思った記憶があるからいつの世にも子供はひねっている。ホント、小学校の先生方はご苦労なことだといつも感謝している。愚息もマンガばかりだが、こんなことになった原因を云々してもブラグマチズムに反するから、せめて改良主義で、全教科をマンガで教えたらと、一度文部大臣に忠告しようかと思っている。そんな愚息だが、さすがに六大都市は知っている。神戸に住んでいるせいかな？ 北九州市の子供は、神戸を抜かすかも知れぬ。神戸は六位だからだ。この方は、ホントむかしからいつも六位だった。

むかし小学生のころ、そのころは丸暗記時代で、ジンムスイゼイもチンオモウニも皆すらすらいえたが、今ためしにやってみるところどころつかえる、呆けたものである。愛郷心も仲々強く、東京市の人口は何の何がし（さすがに今はもう忘れた）ニューヨークまであとひといき、とか、横浜はナンボナンボ、それ五位に躍進のチャンス、などと心ひそかに力を入れたおぼえがあるから、オリンピックほけをした昨年の愚息を笑うこともできぬ。

今や東京も世界一になったがさっぱりである。六大都市とは人口

の多いのが自慢ではないと、この頃やつと気付いたのは、ラッシニアワのせいである。さいわい、経済地盤の沈下で、神戸の商社がミナ大阪へ移ったものだから、通勤ラッシニは一方交通だ。ともかく、大阪市役所は、昼間人口は多くとも住民税はみな阪神間にとられてしまふとなげいているのだから、神戸市としては、大いに市民税をかせぎ、スモッグは大阪におしつけ、山青く水清きわれらが坂



道の街に、スマートなさんちかタウンや公会堂や図書館や美術館やをどしどし建ててもらいたい。早くもこの趣旨が採用され、まず体育館が竣工した。

たしかに、バイエンと交通マヒとサラリー源の大阪から、市民税の神戸へ帰ってくると、何ともいえずほっとする。空気はうまい。水もうまい、が水では色気がないとすると、そこには六大都市のレベルを誇るさまざまな酒舗がまっ

神戸のすばらしさは、すべての人々の（神戸に住む）あまねく語るところだから、もはや筆者の加えることとてないが、それはつまり、歴史を誇る六大都市の一員でしかも人口の点ではその六位を死守している事にある。

海と山にはさまれるシツクな斜面の街、山をけずって海を埋める一見うまい工夫のようだが、我等が愛する山を失い、我等が愛する海を失い、かくして神戸のハッテンを計ることなど、もうそろそろごかんべんを願いたいと、無責任な街のオッサンである筆者は考えている。

△詩人▽

ミュンヘンの

ビール祭り

加藤 隆久

今度一カ月余りの欧米旅行の間あちこちでいろんな祭に出くわした。祭り好きは何も日本人に限ったことでなく、世界中何処へ行っても国柄、風俗の差こそあれ、いつもどこかでお祭りが行なわれていた。そのお祭りの中でも、とりわけ私が面白く思ったのはドイツ

ツ・ミュンヘンのビール祭であった。ちょうど私の泊ったホテルの近く Theresienwiese の広場がビール祭の会場であった。

この祭りは「オクトーバーフェスト」と呼ばれドイツの人々にとっては最も楽しい祭りの一つである。祭りといっても特別の神事があるわけではなく、ミュンヘンのビール会社が寄って一年に一度のデモンストレーションを行なうわけである。広場中央の小さい丘には、この地の守護神ババリヤの女神のブロンズ像が、左手に月桂樹をかかげ右手に百獣の王ライオンを従えて突立っている。この女神の体内へは入場料を払えば入ることが出来る。

さて、その下の広場には七千人も入る大テントのビヤホールが特設されていた。その中で毎日賑やかに飲み食い歌い、ビール祭りの期間中に飲まれるビールが三五〇万リットル、ソーセージの長さが一二〇マイル、食べるチキンが一〇〇万羽。とはいってもミュンヘンでは酔うと罰を取られるので決して酔わないのがドイツ人の根性だそう。また、ビール祭は大人だけでなく子供達にとっても楽しい祭で、会場にはお化け屋敷が作られ、メリーゴーランドが廻り輪投げや手品などの出店で賑わう。

つぎつぎと楽隊が繰りこみ、民族舞踊がおどられ、町全体はお祭の雰囲気にかきこまれる。

ビールと並んで、もう一つの名物はプレッツォオというドイツパンで、皮の堅い塩味のついた風味のあるパンである。下戸の私にはビールよりもこのパンが気に入ったその夜、プラッツルという酒場を訪ねた。ステージではドイツ人独特の鷲鼻の男五人が楽器を弾き、白い靴下にスカートのひろがる赤



や緑の民族衣裳をつけた美人が音楽に合わせて歌いかつ踊る。

ホールでは大きな陶器のジョッキに琥珀色のビールがなみなみと注がれ、何杯も何杯も乾杯がかさねられていた。宴たけなわとなると老若男女を問わず腕を組んでフークソングに打ち興じる。

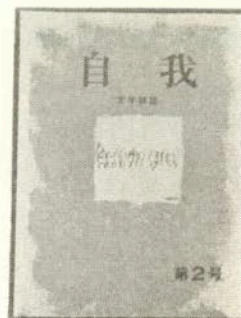
こう書くドイツ人はビールばかり飲んで、いかにも遊び好きだと思われるかも知れぬが、さにあらず、私が今回訪れた欧米諸国のうち最も勤勉で質素で堅実な国民

であることを知った。ミュンヘンの町は戦争によって全体が五〇%、中心部では九〇%が破壊されたが、ドイツ人独特のねばりと努力で昔通りの町に復興した。

ドイツ人はきちんとしたことが好きで、無駄のない生活を好む。ホテルへ入っても半開きのドアのままだと応対してくれない。タクシーに乗ったら運転手から「日本の車は百キロ走るのにガソリンを何リットル使うか」ときかれてギョツとした。朝、目を覚ますと早くも工事の槌音が聞こえ、会社も銀行も夕方六時半まで営業している。ミュンヘンの次に訪れたローマやアテネが午後一時から四時まで一斉に休業というのとは対照的であった。町へ出れば何処の国でもあまり見かけなかった精巧な機械や工作道具がウインドーに飾られていたのが目についた。

またミニジウムへ行ったら「技術博物館」の名がついていて機械ばかりが置いてあり、入場者がそれらを勝手に操作できる様になっている。私は前夜のビール祭りの賑やかさの反面、ドイツ人の質素儉約を重んじる実質主義の勤勉な風風にうたれながら、ゾリンゲンの鉄とナイフをお土産に買って、次の訪問地ローマへ向った。

△生田神社宮司▽



★ある集い★★★★★★★★★

Ⅱその足あとⅡ

「自我」

青木 重雄

「自我」を昨年末から再刊させてくれたのは、なんといっても馬部貴司男、綾見謙、及川英雄の三人の功績である。この三人の提案でやっと消えていた灯台に灯がつき、つづいて藤野克己、青木重雄、谷村礼三郎、伊藤誠らが馳せ参じ、やがて「自我」再刊号という船上には、たくさん有能な新同人や会員が顔をそろえて、やがて船は現実の海上を、文学的新大陸をめざしてイカリを揚げた。

すでに船上の大キヤビンでは、何回もの会合が開かれ、それぞれの意見や希望も十二分に開陳され検討されたわけだから、あとはた

だまっしぐらに全員一致の羅針盤の示す方向に進めばよいのだが、こんどは旧「自我」時代とは違ひ多勢の上に、各人の思想や考え方も以前以上に違ひ、内容的にもいろいろな意味で拡大され、事実上の新展開をめざすことになっているので、あくまで全員一致の友愛の精神が必要というところだ。

同人の顔ぶれをみても、全く多士濟々というところ。代表の及川は三十年以前からのベテランだ。直井潔は戦前の芥川賞候補作家さらに、陳舜臣（江戸川乱歩賞）黒部亨（群像新人賞）冬木喬（宝石短篇小説賞）藤野（新潮新人賞）綾見（婦人生活懸賞小説入選）谷村礼三郎（オール読物一幕物戯曲佳作入選）と受賞同人がズバリと顔を並べている。他の同人にも相当な文学歴の猛者が多く姫路から参加の沖塩徹也は戦前から「早稲田文学」や「紀元」「姫路文学」などに小説、詩、評論を発表してきた優秀選手。長浜謙三郎はかつての「新日本文学」「斗魚」の同人で昭和二十七年に神戸市文学賞を得ているし、松田達郎は戦前は「蠟人形」の詩人だったというロマンの残党からの復帰作家、加藤惇は「文芸首都」同人をかけ持ちの努力家、「自我」の旧同人では、馬部がかつての「市民評論」主催の情熱をこんどは「自我」に

傾け、伊藤も以前の「自我」の後身「正午」時代の熱意をこんどは新雑誌に傾けようとしているし、青木はすでに六年前発刊した「神戸が生んだモダニストたち」（青春と冒険）の評論集につぐ新作を書こうと力んでいる。女性陣の方も意気さかんだ。大阪の坂本嘉江は以前からのベテランぶりを示しているし、小山牧子の文学的ファイトぶりはすさまじいし、また、十八歳の下大路由佳も力作を発表している。

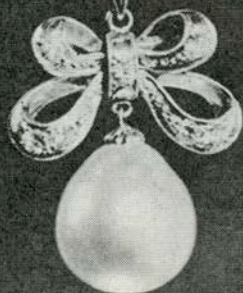
こうみてくると、少々サムライが多過ぎる感じで「自我」という名は、どうも群狼を連想する」と、少々警戒気味のハガキを寄せてくれたイナガキ・タルホ氏のご忠告もわからぬことはないが、それはまあそれで、雑誌の名前のことは第二として、こんどはどこまでも、各同人がめいめいの文学的孤独のコースを歩む上での、人間的連帯感と友情（この友情ということばは、かつて旧「自我」時代に知り合ったフランス文学者でマルロオの親友小松清氏が使う時、とても魅力的に聞えたものだ）を、本当に心の底から燃やしつづけて行きたいものだ。

〈筆者は神戸新聞専門調査報道室〉

—グラフィヤ七頁をご覧ください—

KITAMURA
PEARLS

世界の人々に
愛される
キタムラパール

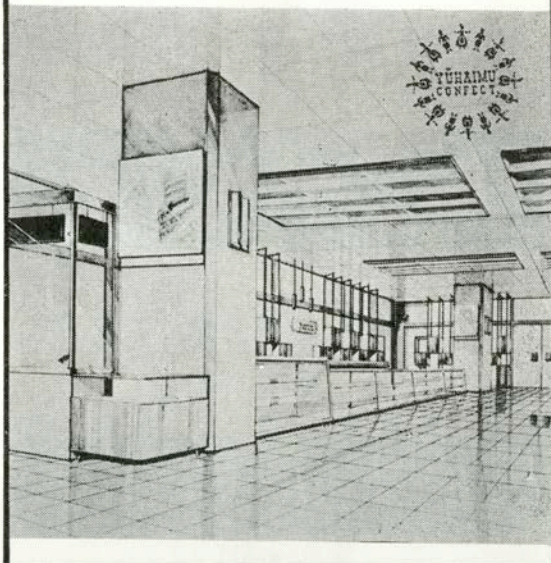


北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL (33) 0072
オリエンタルホテル店 (33) 111 EXT. 331
東京：スキヤ橋店 TEL (571) 8032

ユーハイム コンフ ェクト
神戸デパート店

11月23日 OPEN



北欧の銘菓

ユーハイム
コンフ ェクト

本社・工場 / 葦合区熊内町1(市立美術館東隣) TEL22-1164・9865
神戸デパート店 / 長田区大橋五丁目電停前 TEL61-1201-10



醸 造 元

小西酒造株式会社

西宮市今津港町1番18号

あなたは
 〈キクマサ〉の味をご存じですか
 菊正宗のファンは
 一回のむと決ります
 この中からお選び下さい



清 酒 菊 正 宗

宮内庁御用達

菊正宗酒造株式会社